

☺ 会員募集

死と生をめぐる深い表現とコミュニケーションを求めている多くの人々に、おんころカフェのことをお伝えするため、あなたも私たちに協力していただけませんか？ 当法人の更なる活性化のため、会員を常時募集しております。

一般社団法人哲学相談おんころ 代表理事 中岡成文

▼ 募集概要

◆ 年会費

| 種別 | 法人・団体会員 | 個人会員 |
|------------------------------------|---------------------|---------------------|
| 正会員 ※一般法人法上の社員として、総会での議決権があります。 | 1口50,000円 (1口以上) | 1口10,000円 (1口以上) |
| 賛助会員 | 1口10,000円 (1口以上) | 1口3,000円 (1口以上) |

◆ 入会手続き メールでご連絡ください。または、ホームページの「各種pdfダウンロード」より入会届をダウンロードしていただき、必要事項を記入の上、お送りいただいても結構です。

◆ 期間 入会後は、年度毎に自動継続となります。

◆ 特典 当法人主催のセミナー等への割引料金での参加など

入会申請書受付後理事会の承認を待って、できるだけ早くご連絡致します。

※1口以上のお申込みをお願いします。

※事業年度(4月から翌年3月)の中途入会の会費年額は、入会月の翌月から年度末までの月数によります。

♥ ご寄附のお願い

おんころカフェの活動は、みなさまのあたたかいご支援によって支えられています。私たちの活動にご理解とご賛同をいただき、多くの皆様に、ご寄附のご支援を賜りますようお願い申し上げます。お寄せいただいたご寄附は、おんころカフェの運営のために大切に活用させていただきます。メールでお名前、ご連絡先(メール、電話番号)、ご住所をご連絡いただき、下記の口座にお振込みください。

寄附金のお振込み先

銀行名：三菱UFJ銀行 支店名：茨木支店 店番：219 種類：普通預金
口座番号：0273533 哲学相談おんころ 代表 中岡成文(なかおか なりふみ)



一般社団法人哲学相談おんころ

〒560-0054大阪府豊中市桜の町7-11-1

info@oncolocafe.com 代表理事：中岡成文

https://oncolocafe.com/



謝辞：この冊子は、中岡千枝子様からのご寄附によって作成させていただきました。

「ここでしか得られない」対話体験へ

哲 学 対 話

おんころカフェのご案内

Welcome to Philosophical Counseling Oncolo - Oncolo Café



「おんころカフェ」は、哲学対話の手法を用いて、病による困難をかかえる人々が語り合い、理解や内省を深めること、それを通じて問題解決への手がかりを見いだすことを支援しています。あなたのご参加をお待ちしています。

「ひとはなぜ生きているのか。」

「コロナ」の悲惨さがわたしたちに教えてくれたことがあります。
ひとの脆さとひとの尊さ。ひとの自己中心性とひとの献身。
一人では生きられないこと。

死ぬひともいる。身近なひとで。自分もやがて。
ひとはなぜ生きているのか。それが分からなくても、
私たちは生きています。それが分からなくて…探しあぐねて…
それでも生きています。

病気のとくに、わからなさは最大になるかもしれません。それでも……
わたしたちは生きるでしょう。

人間のふしぎさ。巡りくる苦しみとわずかな喜び。それについて、
「おんころカフェ」で話し合いませんか。お待ちしております。

一般社団法人哲学相談おんころ 代表理事
元大阪大学大学院文学研究科臨床哲学 教授

中岡なりふみ



We are alive - but what for?

The tragedy caused by the coronavirus has taught us human fragility, human preciousness, human selfishness, and human dedication. It taught us that we cannot live alone.

Some people die. Sometimes they are family. Eventually, we will die, too. Why are we alive? Even if we don't know why, we are alive. Even if we don't know why, and fail to find a reason... we are alive. When we fall ill, this uncertainty can be at its greatest, but even still... we are alive.

This is a mystery of being human; recurring suffering and small joys. Would you like to discuss these topics with us at “Oncolo Café”? We are looking forward to meeting you.

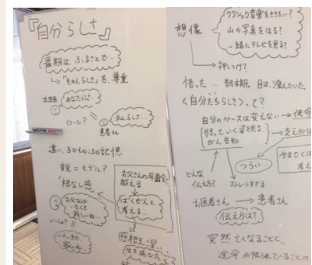
Philosophy Counseling Oncolo Chairman of the Board,
Narifumi Nakaoka

*Philosophical dialogues are usually held in Japanese, but we can also organize them in English. You can request a session in English at info@oncolocafe.com

At “Oncolo Café,” we discuss the meaning of life from a philosophical perspective. We don't look for a definite and ultimate answer, but we try to make sense of our life “as it is,” even if the answer – and our research of it – remains inconclusive or incomplete.



おんころカフェは、がんや難病をご経験された方、治療中のご家族を持つ方、医療者を対象とした哲学対話です。対話を通して自分の考え方や価値観を見つめなおし、困難を抱えながら生きることについて考え、新たな一歩を踏み出す勇気を応援することを目標としています。



参加の方法

「がんや難病の経験者・ご家族・医療者」の別とお名前を明記の上、下記までお申し込みください。

メーリングリスト登録はこちら

日程の確認はこちら



✉ info@oncolocafe.com

参加にあたってわからないことはメールでご遠慮なくお問い合わせください。



対話のながれ



01

簡単な自己紹介を行います。

対話の中で呼んでほしい「呼び名」を教えてください。病気のことは話してもいいし、話さなくても構いません。

02

進行役から「今日のテーマ」と短いエピソードをお話します。

テーマは、病とは直接関係がないテーマです。例えば、「オプションB 次善の選択」「私の中の歌(詩)」「お花見」などです。

03

テーマを聞いて頭に浮かんだことを言葉にしてみてください。

発言するときは手を挙げて、ちょうどキャッチボールをするようなイメージで対話を進めてみましょう。

04

ほかのひとの言葉を聞いて、じっくり噛みしめてみてください。

そして、あなたの中になにか沸いてくる言葉があるか探してみてください。いま直ぐに見つからなくても大丈夫です。対話が終わった後、あるいは1週間後にふと言葉が沸いてくることもあります。



「おんころカフェ」からのお願い



- ◆途中退室はいつでもご遠慮なく、そとご退出ください。
- ◆対話では無言も大切にしています。焦って言葉を発する必要はありません。
- ◆お話はこの場限り、口外しないことを守ってください。



よくあるご質問

Q1

「哲学」って何ですか？

A: 生き方やものごとを掘り下げて考えることです。「内省と対話」がポイントになります。おんころカフェではとくに、「現場」や具体的な経験をたいせつにしながら、いま目の前にあることから少し距離をおいて考え、対話します。対話のなかで発言し、他の人に耳を傾けることで、病の経験が整理され、人生を再構築することができます。

A: 語り、聴くことは、誰もがもっているニーズです。より具体的な情報や、くだけた談話での気分転換を求めている方は、おしゃべり会がいいかもしれません。生き方やものごとをじっくり考える(内省)タイプの方は、哲学対話で新しい発見ができるかもしれません。

Q2

「おしゃべり会」と「哲学対話」の違いは何ですか？

Q3

誰でも参加できますか？

A: がんや難病をご経験された方、そのご家族、医療者のほか、どなたでもご参加いただける対話を「おんころ広場」と呼んで、ひと月に一度開催しています。メールでのお申し込みが必要ですが、どなたでもご参加いただけます。広場には、中学生の方も参加されています。

A: 対話で発言し、他の人の経験を共有することで、気持ちがほぐれ、軽くなり、前向きになることもあります。また、「グループ」で対話しますので、「一緒に考える」こともポイントになります。対話の場では出しにくい感情や経験について個人的に相談したい方は、メールでお問合せください。ただし、専門的な治療や問題解決を提供することはできません。


Q4

個人で話を聞いて欲しいのですが。

この冊子を手にとってくださったあなたへ
参加者の方からのメッセージ



Message 01

 Aさん(おんころカフェ参加2年6か月)


がんを告知された途端、自分には関係がないと思っていた渦にいきなり投げ込まれたように慌しい日々が始まりました。周りの流れについていけず感傷に浸る暇もありませんでした。

複数回の手術が終わった頃、じわじわと絶望を感じるようになりました。治療が一段落したことを喜ぶ周りの人たちをよそに、私はもう今までの自分ではなくなったと感じ、再発に怯えて先の約束ができないと悲しんでいました。みんなとは別の島に流されたような孤立感でした。このまま落ち込んでいるのは辛い、少しでも楽になりたいとカウンセリングを検索して「おんころカフェ」に出会いました。答えを出さない対話、というところに興味をもったように思います。当時自分の気持ちは誰にもわかってもらえないと心を閉じていましたが、「おんころカフェ」では素直に人の話が聴けたし正直な発言もできました。参加を重ねて対話に慣れていくにつれて、病気以外の自分も変わらずにあることや、病気に限らずいろんな悩みや苦しみがあるのは誰しも同じなど当たり前のことを思い出せました。自分を取り戻す大きなきっかけももらったと感謝しています。

告知から3年経ち再発もしましたが、現在は穏やかな気持ちでいます。身体の中にあるがん細胞も含めて私だと感じるようになって怖さが薄れました。もちろん今も検査の結果を待つ間は毎回動揺して落ち込みますが。

苦しんでいた頃の私に、3年後にはこんな風にやってるよ、命が救われただけじゃなくいろんな人に助けられて人生の続きがちゃんとあるよと言ってあげたいです。大切な友達から言われた通り、病気ごときで本当に大切なものは失われないから大丈夫!立派なサバイバーになんてならなくていい、周りの人たちとの関係を大切にして、柔軟に価値観を変えたりしながら自分らしくそれなりに生きていきたいと思っています。

Message 02

 Kさん(おんころカフェ参加3年6か月)

私が「おんころカフェ」に出会ったのは、治療を継続する中での副作用や漠然とした不安の中、ネットで同じ症状について検索ばかりしているときでした。緩和する方法を検索すると「このようにすれば・・・」という、あたかもその方法が正解のような導きに気持ちは段々と疲弊していきました。

病は、そのひとに起こった環境変化のひとつです。それは予期せず、自分だけではどうやっても逃げることのできない現実です。そのような中で「おんころカフェ」の記事を見つけました。

「おんころカフェ」は、今在る自分を開放できる場としてとても重要な場所です。「おんころカフェ」での対話のテーマは普遍的で、モヤモヤしていた思いに無意識に蓋をしてしまっていたことに気づき、今までの自分からでは見つけ出せない幾つもの気づきの欠片をつなげながら、多方面へ思考を広げていきます。参加されている方といっしょにあらためて考えてみる作業は面白く、この時間がとても大切なものとなってきました。

参加することに、思いへのこぼれ落ちてくる色のしずくは、時間とともに広がり薄らぎ溶け込み、確実に淡くとも彩られてきていきました。それは気力へとつながってきています。同時に、素の自分とも向き合え、他のことへもやわらかく捉えられるようになりました。やわらかくとは、うまくいく方向性だけを求めるのではなく、うまくいかないこともゆるやかに受け止め、その状況も吸収し考えていくということです。

病とともに生きていくには、基盤となる診察治療と同時に、臨床に造詣があり思慮深い方々も混ざりフラットな関係性の中で話ができる場の両輪が必要だと思います。そこを「おんころカフェ」が担っていると思います。

Message 03

👤 Nさん(おんころカフェ参加6か月)

私にとって「おんころカフェ」での時間は「自分との対話」の時間です。

他の参加者と会話をしているようで、実は、自分と対話しているのだと感じる時間です。

「おんころカフェ」では、自分の病気のこと、治療のことについては、話してもいいし、話さなくてもいい、そんな雰囲気時間が流れます。

他の参加者の言葉によって、自分の中で「気づき」が生まれ、その「気づき」を外に出してあげることによって、他の参加者の方の「気づき」に繋がる。そんな不思議な空間です。

私は癌だとわかったほぼ同時期にコロナ禍となり、患者会に参加することが難しい状況になりました。仕事を続けながらできるだけ普通の生活を送ろうとしていましたが、組織、社会からの疎外感のようなものを感じて生活をしていました。そんな中でこの「おんころカフェ」は、病気のことを直接話さなくてもいいけれど、最終的には「今、生きること」と向き合える貴重な場となりました。

時には、「気づき」によって涙があふれる瞬間もありますが、そんな自分と対話をして抱きしめてあげることが、今の自分には必要なのだと感じることがあります。

「おんころカフェ」は、まさに「カフェ」です。

ふらっと立ち寄り、ホッと一息ついて、また前を向いて行こうと思えるそんな素敵な場所です。

ぜひ、ひとりでも多くの方にこの癒しを体験してほしいと思います。



Message 04

👤 Tさん(おんころカフェ参加3年)

2018年の夏、私は「おんころカフェ」と出会いました。

初めは「がんと哲学で何のことやる?」と思いながら、会場の大学へ。がんの治療を始めてちょうど一年になる頃でした。私は人との出会いを求めていました。

私は学校の教員をしています。「仕事命!毎日元気!」と走り続けてきた自分が、まさかのがん告知。しかも主な治療は終わったのに、体調はすっきりせず、さらに仕事も人間関係もうまくいかなくなり…。考えることといえば、病気になった後悔と周囲の無理解への恨みばかりでした。「誰か私を救って!」悲壮な気持ちで過ごす日々でした。

会場では、参加者の一人から「おんころのたね」が発表されます。山登りの経験を語られたり、楽器演奏をされた方もいます。ファシリテーターに促され、参加者同士で気付きを出し合う。「何だかよくわからないが、何を話してもいいようだ。来月も参加してみよう。」初めの頃は、そんな感じでした。

何度か参加するうちに、私は自分の悩みを語れるようになっていました。毎回、あるテーマに沿って話し合っているはずが、自分の考え方の偏りに気付いたり、本当に自分がしたいことは何なのかを考えたりしている自分に気付きました。

また、周りに迷惑をかけてきた、自分のがんのことを人に話すのはよくないのではないか。そう思っていた私でしたが、最近ついに、担当する子どもたちに自分のがんの話をすることができました。

おんころカフェに参加することで、悩みや苦しみなくなる訳ではありません。しかし、おんころカフェには、伝えたいことを言える、聞いてもらえる安心感と喜びがあり、私が元気を取り戻す場になっています。落ち込むことはあるけれど、「またがんばろう!」と思える場所なのです。

医療における哲学対話 関連団体(国内)

◆患者さま、ご家族、医療者対象



おんころカフェ(大阪) 中岡成文

- 活動場所 箕面市生涯学習センターなど・Online・ハイブリッド
- 連絡先 info@oncolocafe.com
- 対象 患者さま、闘病中の患者さんのご家族、医療者



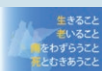
おんころカフェ(東京) Flavia Baldari

- 活動場所 Online(大阪とのハイブリッド)ほか
- 連絡先 info@oncolocafe.com
- 対象 患者さま、闘病中の患者さんのご家族、医療者



おんころカフェ(石川) 菊地建至

- 活動場所 石川県がん安心サポートハウス つどい場 はなうめ ほか
- 連絡先 kiku.yuukou@gmail.com
- 対象 患者さま、闘病中の患者さんのご家族、医療者



がんカフェ・まちなかカフェ・がん相談室(神戸) 藤本啓子

- 活動場所 コーヒーショップSAYAKA、あすてっぶKOBEなど
- 連絡先 ウェル・リビングを考える会 cafe_well_living@yahoo.co.jp
- 対象 患者さま、ご家族のほか、一般の方



第2の患者会 すろーず(岡山) 菱沼路代、松川えり

- 活動場所 岡山県ボランティア・NPO活動支援センター(ゆうあいセンター)
- 連絡先 sloth.okayama@gmail.com
- 対象 がん患者さんのご家族、ご遺族

◆医療者や一般の方対象



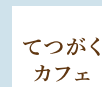
おんころ広場(大阪) 中岡成文

- 活動場所 箕面市生涯学習センターなど・Online・ハイブリッド
- 連絡先 info@oncolocafe.com
- 対象 一般の方



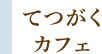
こころカフェ(精神看護「対話する」研究会) 心光世津子

- 活動場所 Online(対面再開後は大阪・名古屋・ハイブリッドも予定)
- 連絡先 cocorodialogue@gmail.com
- 対象 こころのケアにかかわるに関わる看護師とコメディカル



てつがくカフェ「医療とケアを問い直す」西村高宏

- 活動場所 福井を拠点に全国の医療機関等で出張「てつがくカフェ」を開催
- 連絡先 tanishi@u-fukui.ac.jp
- 対象 医療従事者、一般の方(患者さま、またはそのご家族の方の参加も可能です)



てつがくカフェ@南相馬 辻明典

- 活動場所 福島県南相馬市など
- 連絡先 akinori.tsuji0421@gmail.com
- 対象 一般の方(これまで、医療や看護に従事されている方や、障がい当事者の方やそのご家族の方などにもご参加いただいています)

参加などの詳しいお問い合わせは
メールで各団体をお願いします。



医療における哲学対話 関連団体(海外)

◆医療者や一般の方対象

 **Philo Cité Recherches: Denis Pieret, Alexis Filipucci**
🏠 Place of activity Liège, Belgium ✉ Contact info@philocite-recherches.eu

[Information] Fondée en 2014, PhiloCité-Recherches résulte de l'association de chercheurs en philosophie issus de l'université de Liège engagés dans diverses pratiques de terrain (animation de discussion philosophique, formation, accompagnement d'équipes de professionnels, etc.) et vise à articuler de manière toujours plus serrée la rigueur de l'analyse à la force émancipatrice du savoir. Multipliant progressivement ses interventions au sein du secteur des soins de santé, PhiloCité-Recherches est désormais reconnue comme un acteur porteur d'une voix différente et importante par les professionnels de la santé ainsi que par les patients.

L'association s'est particulièrement investie dans la défense de l'esprit la loi belge relative aux droits du patient. Cette dernière conférant au patient le « droit de consentir librement », il est crucial d'entretenir dans la population entière un rapport aux savoirs et aux pratiques médicales porteur d'émancipation.

Outre des supervisions d'équipe de travailleurs dans le secteur des soins de santé, PhiloCité-Recherches offre des analyses et des formations portant notamment sur l'apport de l'anthropologie médicale dans la co-élaboration d'un diagnostic médical, sur l'essence d'une décision médicale juste, sur la dimension sociale du stress ainsi que sur les déficits épistémologiques et politiques de la couverture médiatique de la crise sanitaire.

2014年に設立されたPhiloCité-Recherches(フィロシテ研究所)は、様々なフィールド実践(哲学対話の進行、研修、専門家チームへの寄り添い等)において活動してきたリエージュ大学の哲学研究者たちによる団体を原型としており、常にその場に合った形で、分析の精密さを知的解放力へと結びつけるようめざしています。徐々に団体の医療現場の中での活動範囲が広がるにつれ、現在フィロシテ研究所は「もうひとつ」の重要な声を代弁する役割として、患者の方や医療従事者から認知されています。我々の団体は、患者の権利に関するベルギーの法律と理念の擁護に特に注力してきました。ベルギーの法律は患者に「自由同意の権利」を与えているので、すべての市民が、知と医療行為への関係を持ち続けて、解放のきっかけを得ることがこの上なく重要です。フィロシテ研究所は医療チームに指導助言するほか、医療人類学を導入して医療診断を(患者も参加して)共同構築することや、正しい医療的決定の本質や、ストレスの社会的側面や、また新型コロナ危機のメディア報道に認識論的、政治的な誤りがあることなどを中心に、分析と研修を提供しています。

運営メンバー

中岡 成文 Narifumi NAKAOKA (代表理事)

元大阪大学大学院文学研究科 臨床哲学 教授

佐野 桂子 Keiko SANO (理事)

団体職員/哲学対話コーディネーター

以前の私は、「こうあるべき」「こうでなければ」という自分の思い込みで縛られて生きていました。しかし、少しずつ何かが違うと感じ始めたころ、父が末期がんであることが判明。その闘病を通して病をめぐるさまざまな問題を知り、同じ経験を持つ哲学者の中岡さんとおんころカフェをはじめました。苦しいとき、誰かの言葉が支えになることもあります。本当の答えは自分自身の中にあると思います。おんころカフェは、他の参加者の方々と経験を共有しながら、自分の言葉で答えを見つける対話の場です。ぜひ、あなたのご参加をお待ちしています。



山本 洋一 Yoichi YAMAMOTO (理事)

大阪大学医学部附属病院 未来医療開発部 臨床研究センター 教授/医師(神経内科学)

ヒトには、1つのことを異なる観点からみる才能が備わっています。例えば、宇宙に行かずして宇宙から私をみたり、他人の気持ちになってみたりすることなどです。そうしてみることで、自分をも再発見できるかもしれません。一人で居ると、多様な視点を失いがちです。おんころカフェの哲学対話は、その機会を提供します。



フラヴィア・バルダリ Flavia BALDARI (理事)

東京大学国際高等研究所 東京カレッジ/哲学対話コーディネーター

日常で自分の「人生の意味」、「価値観」、「希望」などをじっくり考える時間が少ないので対話の場を開くことは重要だと思います。おんころカフェの対象になる患者さん、その家族、医療者におけるさまざまな悩み、疑問、不安がおそらく多くあり、それらを皆で考えることを目的とします。対話の一つの目標はモヤモヤな状態を整理すること、自分がどう考えているか、なぜそれを考えているかをより明らかにすることです。みなさまの言葉を聞きながら、みなさまと自分の考えをシェアしながら、新たな発見ができると思いますので、ぜひ、おんころカフェにご参加ください。



大野 智 Satoshi OHNO (理事)

島根大学医学部附属病院 臨床研究センター 教授/医師(統合医療、緩和ケア)

病気と診断されると、将来が不安になったり、過去を後悔したりすることがあると思います。また、今受けている治療が本当に自分にとってベストだったのか葛藤に苦しむ人もいます。悩みを抱えるさまざまな立場の人が、対話を通じて、自分自身を見つめ直す時間を共有できる場として「おんころカフェ」を活用してもらえたら幸いです。



岡 義雄 Yoshio OKA (理事)

箕面市立病院 病院長/医師(上部消化管外科、緩和医療)

人は一人で生きていけるようで実は一人で生きていけないのではないのでしょうか。誰にでも淋しいことや悲しいこと、つらいことはあると思います。その苦悩や弱音を一人で耐え、内に抱えるのではなく、それを吐き出す場所があって聴いてくれる人がいればたとえ状況は変わらなくてもその苦痛は和らぐのではないのでしょうか。そして次第にその置かれた状況に適應できるようになるのではないのでしょうか。「おんころカフェ」はそういう場として、皆様が開かれた場所でありたいと思っています。

